

令和7年度第1回箕面市廃棄物減量等推進審議会 会議要録

開催日時	令和8年2月2日(月) 14:00 ~ 16:00
開催場所	箕面市役所 本館2階 特別会議室
出席委員数	11名
欠席委員数	1名
傍聴者数	1名

- 【報告1】 収集計画の見直しについて
- 【報告2】 リチウムイオン電池等の拠点回収について
- 【報告3】 食品ロス削減推進に向けた啓発活動について
- 【報告4】 ペットボトルの「ボトルtoボトル」リサイクルについて
- 【案件1】 令和8年度一般廃棄物処理実施計画について

会長	<ul style="list-style-type: none"> ■開会のあいさつ ■委員の変更について ■委員自己紹介 ■事務局紹介
会長	それでは、本日の審議会の成立要件について、事務局へ報告を求めます。
事務局	<p>事務局より本日の審議会の成立要件についてご報告いたします。</p> <p>本審議会委員12名のうち、本日の出席は11名で、過半数のご出席をいただいておりますので、箕面市廃棄物減量等推進審議会設置条例第6条第2項に基づき、本審議会が成立することを報告いたします。</p>
会長	本審議会は、原則、公開となっておりますが、傍聴の方はいらっしゃいますか。
事務局	本日は傍聴人の方が1名いらっしゃいます。
会長	次に、配布資料の確認を事務局からお願いします。
事務局	<p>(配付資料の説明)</p> <p>なお、本審議会は、議事録作成のため録音いたしますのでご了承ください。</p>

会長	<p>それでは、次第に沿って進行いたします。</p>
事務局	<p>【報告 1】 収集計画の見直しについて ※【報告 1】資料に沿って説明。</p>
会長	<p>【報告 1】に關しまして、何かご意見、ご質問はございますか。</p>
委員	<p>新たな古紙類の回収について、私の自治会では集団回収と併せて月に計 4 回となるため、市民としてはありがたいと思います。</p> <p>集団回収は、古布の回収もしています。市が古紙類を収集すると、集団回収の古紙類が減少すると考えます。そうすると古布が古紙類に比べて価値が低いのであれば、集団回収の採算が合わなくなり、集団回収の活動が継続できなくなり、将来的に集団回収の参加団体が減少することを懸念します。</p> <p>「集団回収への影響を確認し、課題把握及び必要な対応を検証します」とありますが、現状の見通しなどを教えていただきたいです。</p>
事務局	<p>箕面市の場合、これまで地域団体の皆さまの協力のもと古紙類等の回収を行ってきました。令和 9 年度の本格実施を見据え、令和 8 年度にモデル収集を行います。この 1 年間で実施団体エリアでの排出量の増減や傾向、未実施エリアでの排出量等の実績を集めていきたいと考えています。</p> <p>また、現在古布については、集団回収の品目としていますが、新たに始める箕面市の収集品目としては現在検討中です。古布は、衣料品小売店などで回収する仕組みもございますので、古布の収集については、実情を鑑みながら検討を続けていきます。</p>
委員	<p>集団回収業者の立場から現状を説明します。古紙類の量が減少すると価値は上がるはずなのですが、実際は価値は上がらず、収入が減る一方です。箕面市以外では行政が収集を行っているので、我々の業界はどんどん厳しくなっています。今後は箕面市と話し合いをより深めながら、進めていきたいと考えています。</p> <p>また、自治会等の地域コミュニティ団体がない地域もあると思われますので自治会結成や加入に力を入れてほしいと思います。</p> <p>集団回収頻度のことですが、他県では週 1 回の回収を行っているところもありますが、トラックがほぼ空の状態で走っていることもあります。近隣市では回収頻度は現在の半分でもよいのではないかとの意見も出ています。</p> <p>集団回収業者の業績が厳しいことを理解している市では、報償金や助成金があると聞いているので箕面市も検討していただきたいです。我々としても回収品目の追加等の相談を今後行っていけたらと考えています。</p>

事務局	<p>自治会や地域コミュニティ団体が集団回収を行っていない地域の方々が古紙・段ボールなどの排出に困っているとの話もお聞きしています。そのようなニーズの高まりから令和 8 年度はモデル事業として試験的に実施し、1 年間様々なことを検証しながら令和 9 年度の本格実施に向け検討を進めています。また、市民アンケートでは継続して集団回収を行いたいと意見がある一方、地域によってはなかなか人が集まらないため集団回収を続けることが難しいという意見もありました。こういった地域の実情を見ながら進めてきた、というのがこれまでの経過です。</p> <p>なお、この件に関する進捗については、本審議会にて報告をしていきます。その際は、ご意見をいただければと考えています。</p>
委員	<p>収集計画の見直しについて、これまで箕面市ではアウトソーシングを進めてきましたが、今後は徐々に直営に戻していくということで、もう少し詳しくここまでの経過を説明する必要があると思います。民間委託でも委託費用がかかります。それを直営収集に切り替え、職員の採用や収集車の手配等のコスト面を鑑みても見直しをしなければいけなかった事情についてももう少し詳しく説明をいただきたいと思います。</p>
事務局	<p>見直しの背景にも記載していますが、元々はアウトソーシング計画は数年かけてクリーンセンターの業務を 100% 全面委託するという方針でした。</p> <p>しかし、本市に限らずですが、全国的にも廃棄物業界は大きく変化をしています。災害時の応援等のニーズも高まっている中で、事業者も人員不足で手が回らなかったり、さらには廃業する事業者も出てきています。そのような状況の中で箕面市は 100% 民間委託を目指すように計画を進めてきましたが、廃棄物行政を取り巻く環境の変化によって、100% 民間委託は厳しいという事業者から要望書の提出があり、今年度アウトソーシング計画の見直しを行いました。</p> <p>また、市内事業者も作業員の確保が厳しい中で、箕面市としても平成 30 年度の大阪北部地震の経験から、職員数の確保が必要である考え、これ以上収集職員を減らすと災害時に対応できないと判断をしたことも要因の一つです。</p> <p>このような背景から、燃えるごみの民間委託の一部地域を市に戻し、それに伴い必要な車両や職員の確保を進めています。また、先ほど説明した段ボールなどの新たな収集品目に対応するために処理施設の一部改修が必要になりました。</p>
委員	<p>箕面市は、100% 民間委託の方針を転換して一部直営で収集を行うということですが、近隣市ではどのような動きがあるのですか。ごみ収集は大変な労働</p>

<p>事務局</p>	<p>と思いますが、採用するための職員が集まるのかどうか、また、夏場において過酷な労働に対するケアはどうなっているのかを分かる範囲で教えていただきたいと思います。</p> <p>近隣市の状況ですが、現状を維持していく姿勢が一般的ですが、近隣市では請負事業者が人件費・物価等の高騰によって、委託費用が合わず受注しなかったという状況をお聞きしています。本市では今回、募集人数に対して採用人数を満たすことができました。ただ今後は、人材育成も含めて継続するという部分が非常に難しくなる可能性も懸念としてあります。</p> <p>大阪北部地震では、各地域の受託業者が手分けして燃えるごみの収集を担当していただきました。市直営では大型ごみ、燃えないごみと災害ごみを回収した実績がありますので、こういった経験をしっかり次の世代に繋げていきたいと考えています。</p>
<p>委員</p>	<p>元々は民間委託を 100%にするという方針で当組合と行政で話をしました。</p> <p>しかしながらこの間、コロナ禍や能登半島地震がありました。委託業者の中には箕面市の業務だけを請け負っている業者もいますが、大半は他市の業務も請け負っています。箕面市では前市長の時に、当組合と災害協定を締結しており、台風 21 号や大阪北部地震の際にも当組合でごみ収集をしました。コロナ禍のときでも、力を合わせて市と議論しながら 1 日も遅延することなく収集を行ってきました。</p> <p>仮に災害が発生した場合、箕面市だけが被害を受けるわけではなく、必ず近隣市にも被害が広がるため、我々が箕面市だけを特別扱いすることは、他市の実情も踏まえるとできなくなります。このような実情から、今なら箕面市と当組合が協力をして市民生活に影響を与えずトラブルがないようにすることができると考え行政側に提案をしたものです。</p> <p>パッカー車については価格が非常に高く、コロナ禍以前は 1 台あたり大体 600 万円前後でしたが、現在は 1 台 1000 万円を超えています。車両の耐用年数は、約 10 年でありその間も維持管理に費用がかかります。パッカー車については大手メーカーが 2 社ありますが、この 2 社の供給能力も限界に達しており、以前は発注すれば 1 年以内に納品されましたが、現在では納品までに約 2 年かかります。そのため 2 年先の契約をしないと新車の準備ができない、という状況です。</p> <p>また、ごみ収集はかなりの重労働であり、なかなか人が集まりにくく、また長期間勤め続けることも難しいというのも現実問題としてあります。</p>
<p>会長代理</p>	<p>モデル収集実施のチラシですが、このチラシを見たら結局古布は出せるのか、出せないのかに迷うと思います。そのあたりをはっきりと書く方法を検討</p>

	<p>されてはどうかと思います。</p>
事務局	<p>ご指摘についてはその通りだと認識していますが、ここについても少し様子を見させていただきたいと考えています。市民の皆さまは集団回収で回収するものは資源物であると認識していると思います。「布はダメです」というような表現が一番よいとしても、布団が出てきたり違うものが出てくるのが現実には起こっていますので、このような表現にしています。この表現については、様子を見つつ検討していきたいと考えております。</p>
会長	<p>非常に深い社会事情が反映されているということと、従来の集団回収と市が回収する内容の違い等が色々ありますので、慎重かつ実験的に見ていくということですね。</p>
事務局	<p>【報告2】リチウムイオン電池等の拠点回収について ※【報告2】資料に沿って説明。</p>
会長	<p>【報告2】に関しまして、何かご意見、ご質問はございますか。回収拠点としては、この4箇所ですべて市内全域をカバーできているのか、今後広げていくのか、そのあたりはどうでしょうか？</p>
事務局	<p>回収拠点の4箇所の状況をお伝えします。この回収拠点を設置する前は、リチウム電池等の出し方について1日数件の問い合わせがありました。</p> <p>回収ボックスを設置してからは市民からの問い合わせがほぼなくなっていることから、現状の回収拠点ですべて市内全域をカバーできていると考えています。なお、令和9年度には、リチウムイオン電池等の分別収集を開始する予定ですので、分別収集開始に伴い拠点回収は終了する考えです。</p>
委員	<p>火災防止の観点から対策が急務になりました、とのことですが、こういった状況になると火災が発生してしまうのでしょうか。</p> <p>また、電気シェーバーやワイヤレスイヤホンなどはどのように分別しないといけないのか自分自身理解していなかったところもあると思っております。広報の方法も難しいと思うのですが、具体的にどのように広報していくのか、どのレベルでやっていくべきだとお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>火災に関して、発火原因等は消防で検証をされていますが、一般的に衝撃と圧力が主な発火原因と聞いております。</p> <p>ここ数年で全国的なニュースなどで飛行機や電車の中、ホテルなどで発火が相次いでいます。どのような要因で火災になったかの詳細は分かりかねます</p>

	<p>が、本市でもリチウムイオン電池が原因である火災が今年度発生していますので、消防とも連携を取りながら情報交換を行うとともに、国の動向も共有しながら業務に取り組んでまいります。本市としては、回収ボックスについては他市の事例も参考にしながら設置しましたので、他市実績からも回収ボックス設置により火災の危険性が低下すると考えています。周知については、すでに広報紙で行っているところです。</p> <p>今後は新たな収集体制でリチウムイオン電池等を収集していくなかで、これが火災予防に向けた取り組みであるということも併せて周知をしていきます。また、消防とも随時連携をとっていきたいと考えています。</p>
委員	<p>メディアでの火事の報道も多いと思うので、そういったところも含めて国民全体の意識が上がっていくのかなと思います。私どもの施設でもテナントが出したごみを一旦回収するなどの対応をしているところですが、その中で、このようなことも啓発していかないといけないと思いましたので、参考になりました。</p>
事務局	<p>【報告3】食品ロス削減推進に向けた啓発活動について ※【報告3】資料に沿って説明。</p>
会長	<p>【報告3】に関しまして、何かご意見、ご質問はございますか。</p>
委員	<p>最後に説明された計画目標の達成状況について、「(2)食品ロス削減に取り組む市民の割合」というところですが、令和7年度が69.5%で令和12年度の目標値が76.1%となっています。この市民満足度アンケートとは、こういった方々を対象に行っているのでしょうか。全市民を対象にアンケートをしているのですか。この設問に答えられる方は、元々食品ロスへの意識の高い人ではないかと思えます。</p>
事務局	<p>市民満足度アンケートは、2年に1回行っております。市の様々な分野の政策を考えるために、福祉、教育、ごみ等様々な分野の設問を設定しており、2年に1回調査をすることで我々の政策の効果がどうだったのか、あるいは新たな政策を考えるために調査しているものです。調査対象は、年齢や地域、性別含めて16歳以上の方2000人を対象に完全に無作為で行っております。この中で回答をいただけるのが1000件ほどなので、回答率は5割程度です。回答者がどういう方であるのかは、我々は全くわからないところです。</p>
委員	<p>対象が2000名で大体回答が1000名程度で、その中でこういう回答があったということですか。</p>

事務局	その 1000 名の方の中で、69.5%の方が「いつもする」と回答されていること になります。
委員	この回答の数値について、市はどのように評価をされているのでしょうか。 例えばアンケートを実施するときにある程度の予測値など、これぐらいの回答 があるだろうということでアンケートをされると思うのですが、70%近い人が 令和7年度に、実際に意識を持って実行されているのでしょうか。
事務局	<p>これは非常に悩ましいところですが、14万人に対する1000件は統計学的には かなり有意です。14万でしたらおそらく400-500件程度のサンプル数で統計 が取れるはずですので、1000件の回答があるということはかなり有意であ るとは考えています。ただ、その方々が本当に日常ずっとそういうことを実行 されているかどうかを判断するのはなかなか難しいと思っています。</p> <p>来年度の予算がまだ確定していないので、現時点では断言できませんが、先 ほど説明したとおり、来年度はごみの組成分析を実施する予定です。ごみの中 に食べずに捨てられた食品であったり、いわゆる食品ロスに相当するものが実 際どれぐらい入っているのか、ということを含めて調査しますので、その数値 を見るのもひとつの手法だと思っています。このアンケートの数値だけで76% に近いからよかった、という話ではないと考えます。令和9年度末には10年 計画であった現行の箕面市一般廃棄物処理計画が満了します。今後新たな計画 を策定するために、本市のごみ量がどれぐらいなのか、組成分析の結果はどう なのか、などの現状を踏まえて、将来を見据えながら議論を進めていこうと考 えています。そこから69.5%という数値の有用性について評価していきたいと 考えています。</p>
委員	箕面市では給食が実施されています。例えば食べ残しの数値について、 現状の食品ロス削減推進の運動以前と現在の比較データはありますか。
事務局	教育委員会にはあろうかと思いますが、現状把握できておりません。
委員	わかりました。
委員	<p>箕面市においては、当施設をご利用いただき、またイベントも行っていただ きありがとうございます。今後ともよろしく願っています。</p> <p>我々も、こういった形で箕面市と協力させていただいていることを大変嬉し く思っています。</p> <p>今後とも継続していきたいと考えているところですが、そのなかでひとつ質</p>

事務局	<p>問です。食品ロスの削減の推進計画を立てられて、それを元を実施されていますが、こういったことをすることによって箕面市には、こういったメリットがあるのかを教えてくださいたいと思います。</p> <p>例えば、ごみ焼却の費用が減る、などがあるかと思います。</p> <p>市のメリットは、まず、ごみ減量に繋がるということです。食品ロスが削減されて無駄がなくなると単純に焼却に掛かる費用が減少します。箕面市の場合にごみ袋を一定枚数無料で配布しておりますので、減量により配布総量の範囲内に収めていただくことで市民負担も減ることになります。また、まずは無駄に買わないという視点も必要ですので、消費に関する部分については、今後様々な研究が必要であると考えています。</p>
委員	<p>例えば、動画共有サイト等で料理レシピを見ている、野菜のヘタを落とすときも極力無駄をなくしましょうなど、食品ロスに向けた認識が高まっていると思います。そういったことをしないとコメントで叩かれるそうなんです。このような背景からもかなり全国的にも認識が高まっていると思います。今後は食品ロス等は自然に減っていくと思いますが、食品ロスを出すことが、かっこ悪いと思えるような形に持っていくために、草の根活動も箕面市には必要だと思いますので、協力できるところはさせていただければと思います。</p>
会長代理	<p>先ほどのアンケートで、まだ食べられる食品を捨てない工夫をする人でも、やっぱり出てしまう食品ロスはあるので、工夫をしているかどうかと、実際に食品ロスを出しているかどうかは、意識と行動の問題であり、乖離が生じます。その意識を高めることを目標にするのであれば、意識付けができるような啓発をしていくべきだと思います。実際に取り組む人が増えたら、全体として食品ロスは減っていきます。意識と行動の間にはギャップがあるものですが、行政は、目標として意識を高めていくところにしかまずは重点を置けないと思いますので、そこは継続的にやっていくべきだと思います。</p>
事務局	<p>我々もこのイベントを行うときには、まず最初にしっかりとお知らせするよう意識していきます。そして、機会を創出するところでは、組成分析を実施していくなかで箕面市の実情が見えてきますので、先ほどの乖離の部分についても啓発活動は続けながら議論を進めていきたいと考えています。</p>
会長	<p>組成分析は、次回が初めてでしょうか。</p>
事務局	<p>ここ数年は行っていませんが、過去には行っていました。食品ロスという言葉が一般的になってからは組成分析は行っていません。燃えるごみ袋内のご</p>

	<p>みの組成調査はしてはしましたが、その中で食べ残しがあるのか、手つかずの食材がどの程度あるのか、こういった部分はまだ調査できていませんので、その部分も併せて行っていきたいと考えています。</p>
事務局	<p>【報告4】 ペットボトル「ボトル to ボトル」リサイクルについて ※【報告4】資料に沿って説明。</p>
会長	<p>【報告4】 に関しまして、何かご意見、ご質問はございますか。</p>
委員	<p>ペットボトルの資源化について、高い資源化率が維持していると思います。確かに令和5年、令和6年、は99.2%、94.8%なのですが、ボトル to ボトルの開始前の令和4年度の数字は95.5%と計算できます。令和3年度は89.2%ですが、令和2年度は99.5%ですので、高い資源化率はボトル to ボトルの取り組みによる影響ではないと思います。</p> <p>ボトル to ボトルでは、集めたペットボトルが再利用されて新たなペットボトルになるということが大切なのではないかと思います。</p>
事務局	<p>ご指摘のとおりです。ボトル to ボトルの取り組みを始める前からペットボトルの資源化の取り組みは実施していました。当時は小学校の社会見学の際に「我々が着ている作業服がペットボトルからリサイクルされてできている」と説明をしていました。現在はボトル to ボトルの取り組みにより、新たなペットボトルに作り直されていますので、「皆さんが飲むペットボトルのお茶などには箕面市が資源化したペットボトルが使われている」という説明をしています。環境クリーンセンターにて再資源化しているペットボトル自体は、ボトル to ボトルの取り組み前後で変わっているわけではなく、再生方法が変わっているということなので、資源化率としては、その通りの認識です。</p>
事務局	<p>【案件1】 令和8年度一般廃棄物処理実施計画について ※【案件1】資料に沿って説明。</p>
会長	<p>【案件1】 に関しまして、何かご意見、ご質問はございますか。</p>
委員	<p>以前の審議会で、事業系ごみが増えていて家庭ごみは減っているのでも市民が頑張っていると申し上げたのですが、市内の事業系の収集量は変わっていませんね。以前の審議会では「事業所数が増えているということを考慮すると、1事業所あたりの排出量は減っている」と認識しましたが、これは間違っていたことを、お詫びしたいと思います。その上で剪定枝が増えているとのことですが、公園道路の管理に伴うものと家庭での庭木の剪定ではどちらが多いのでし</p>

事務局	<p>ようか。もし分かれば教えていただきたいです。</p> <p>また、剪定枝は事業系にしては割合が多く 27%程度を占めているので資源化にすると良いのではないのでしょうか。関東ではチップ化して市民に配っているところもあります。</p> <p>事業系ごみについては委員がおっしゃったように、増えているという議論があったことは、よく記憶しております。それもあって今回、事業系ごみの分析を行ったところですが、委員のご指摘のおかげで色々見えてきたところがございますので、むしろ感謝申し上げます。</p> <p>管理上の剪定枝等と家庭の庭木のどちらが多いかというデータはございません。造園業者も、家庭1軒ごとに搬入するわけではなく、両方積んで来ることも多いためデータ的には分かりません。ただ、現場を見ている感覚としては、公園管理や道路管理の方が多く印象はあります。ただし、そのような印象を持つのは、公園などから排出される剪定枝の方が太めの枝が多いからかもしれません。</p> <p>次に、その剪定した枝を資源化、堆肥チップ化にできないかというところですが、箕面市でも過去には市内で発生した剪定枝と給食を作るときの調理残渣を使って堆肥化を行っていました。そうして作られた堆肥は有用に使えるという観点もありますが、一方で地球温暖化への影響も考慮する必要があります。</p> <p>二酸化炭素は温室効果ガスであり、その排出量を減らさなければいけないと言われていたところですが、剪定枝を堆肥化するときには発酵が生じます。その際に発生するメタンは大気中に放出されますが、メタンは二酸化炭素の 20 倍以上の温室効果をもたらしますので、それを大気中に放出するのはいかなるものかということも、これからの時代は考えないといけません。このメタンを有効に回収して発電に回したらいいのではないかという考え方も当然あるかと思えます。実際、メタン回収による発電で高い発電効率を得ている施設もございますが、当然、ここには初期投資やメンテナンスコストを興梔すると大きな課題があります。また、チップ化、堆肥化されたものが使われずにごみとなった場合には、再度環境クリーンセンターに搬入され燃やすこととなります。堆肥は発酵過程ですでにエネルギーが失われていますので、燃えにくいごみが大量に入ってくるということになり、環境クリーンセンターでの発電が非効率になってしまいます。もし作るとしても、確実に使ってもらえるような体制ということも考えなければいけません。箕面市で堆肥化を進めた時代からさらに時が経ち、考えるべき課題が多いこともあり、現在のところは実施する予定はないというのが現状です。なお、4,400t の剪定枝、これは全量焼却炉で焼却していますが、そのときに発生する二酸化炭素は、草木が生育時に吸収した二酸化炭素を再度排出していることになるので、あくまでも計算上ですがカーボンニュートラルになると思えます。</p>
-----	---

委員	<p>今回の審議会を通して全体の話にもなるのですが、苦言ではなくてアイデアとしてお聞きいただければと思います。本審議会ではごみの削減や、資源化、再利用の話をしてはいますが、この会議に使われている資料の紙自体が多いと感じます。弊社でも昨今ペーパーレスが進んでおります。できること、できないこともあると思いますが、私からすると紙の資料には違和感があったので、そういうところにもチャレンジしていただくと、皆さんの本気度も伝わりやすいのではと思いました。</p>
事務局	<p>委員ご指摘のとおり本審議会ではペーパーが多いと思います。この時代にあった会議の進め方もありますし、庁内会議では全職員ノートパソコンが配布されていることもあり、庁内会議は原則として紙を配らずデータで配信するようになってるところです。皆さまの利便性はそれぞれかと思いますが、全員分のパソコンを用意するかどうかは別として、この会議の趣旨を考えると、委員のご指摘は次回に活かすべきと考えます。ありがとうございます。</p>
委員	<p>まだ大学生なのもあり、正直ごみ出しなどは家族にしてもらっているところです。現状は食べ残ったものがどうなってるかなどもあまり理解できていません。また、自分が使って壊れてしまったモバイルバッテリーの処理についても、結局置いたままで、家族もどう処理すればよいかわからない、といったことも多いです。身近でもそのような状況があるので、やはりしっかり周知してもらうことが一番大切であると思いました。</p>
委員	<p>古紙回収については、個人的には、やってくれたらすごくありがたいと思っていました。市民として率直にありがたいと思いました。今日の話の中で集団回収との両立とか、色々な背景があるということを知ることができて大変勉強になりました。</p> <p>古紙については我が家では、ある程度段ボールが溜まるとホームセンターなどにある回収ボックスに持って行くのですが、そこも結構満杯になっていて溢れそうになっているのをよく見かけます。たたんでいない段ボールが入ってたりルールがめちゃくちゃなのを見かけます。</p> <p>分別や出し方についてルールの周知を徹底する方がよいと思いました。</p>
委員	<p>リチウムイオン電池の回収について、会社としても市と協議をさせて頂いた上で協力させていただきたいと思います。</p>
委員	<p>皆さんの意見を聞くと、共通項は「周知の重要性」と感じます。事務局からは、周知はしているとは聞きましたが、私自身も市のホームページを含めた情</p>

事務局	<p>報は見ますが、学生や市民に対してはまだ周知が不十分という気がします。今後は、新たな周知方法を考える必要があると感じました。また、先ほどのペーパーレスの意見ですが、もし可能であればこの会議にタブレットなどを貸与することも検討いただき、多様な対応をお願いしたいと思います。</p> <p>ご指摘いただいた周知の重要性についてですが、役所では往々にして、広報紙やホームページに載せたことで周知したことになる、と考えがちです。これ自体は間違いではないのですが、どのチャンネルを利用して周知するのが最も適切なのか、ということについては改めて考えないとこの現状は解消しないと考えています。例えば、事業所や商工会議所、あるいは大学や高校など、様々なところで周知のための授業をするなど、多様な手法を用いることで広がりも出てくるのかなと感じましたし、我々としても非常に反省するところがあると感じました。先ほどのペーパーレスもそうですし、周知の考え方というところについてもここで終わりではなくて、その先の一步ということを考えることが我々の課題ですので整理をしていきたいと思っています。</p>
会長	<p>箕面市は非常によく頑張っていると思います。また、データも誠実に作り上げられています。焼却後の灰の処理についてですが、関西の市町村では、ほとんどが焼却後の灰の処理については、関西圏の一部自治体が大阪湾広域臨海環境整備センターを通じて大阪湾の埋立処分場を利用していますが、こうした埋立依存には明確な限界があります。最終処分場の容量は有限であり、かさ上げなどの延命措置も一時的対応に過ぎません。にもかかわらず現状維持の認識にとどまることは問題の先送りであり、将来的には処分の選択肢が大きく制約されるおそれが高いです。すでに焼却灰のセメント原料化など資源化の取り組みも進んでおり、ごみ減量と資源循環の推進は不可避の課題です。今の段階から一層踏み込んだ対応が求められます。減量、循環というテーマには限りがなく、まだまだこれから大きくなっていく、私自身はそのように見ておりますので、これからもしっかりと頑張りたいと思っています。</p> <p>これで、本日の審議を終わります。 ありがとうございました。</p>